2023年06月30日 中日新聞 朝刊 20頁

#楽器博物館 いいね！

by 静岡文化芸大生

SNSで催しなど発信

職員たちによる展示の準備風景を撮影する学生たち＝浜松市中区の市楽器博物館で

静岡文化芸術大の学生が浜松市楽器博物館の公式ＳＮＳ（交流サイト）で広報を担うプロジェクトが始まった。28日には休館日を利用して特別展の準備風景を撮影。ツイッター、インスタグラム、フェイスブック、ユーチューブの４ツールで同館の催しや舞台裏を発信していく。（高橋雅人）

大学から近いのに学生の来館者が少なく、同館が情報発信の方法を再検討。「学生が発信すれば十代、二十代にも届くのでは」と考えた。職員の増田博行さんは「ＳＮＳは炎上のリスクもあり、片手間ではできない。通常業務との両立が課題だった」と明かす。

一方の大学側も、学芸員資格の取得を目指す学生が座学では得られない経験を積む機会として歓迎。芸術文化学科の田中裕二准教授は「ＳＮＳは学生の方が使いこなしている。学生は学芸員の仕事ぶりを見ることもでき、双方にメリットがある」と強調する。

学生たちはツールごとに班に分かれて現状を分析。「ハッシュタグ（検索目印）に『浜松』『観光』を加えてはどうか」「通勤時や昼休みなど見てもらえる時間帯に投稿した方がいい」などのアイデアを出し、早速発信を開始した。

二十八日は三年生十四人が同館を訪れ、七月十五日から始まる特別展「どうする江戸の音楽」のパネルを作製する職員たちを撮影。ツイッター班の永田みうさん(二〇)は「お客さんが見られないところを見せられたらおもしろい」とスマホのカメラを向けた。

インスタグラム班はメンバーが似顔絵で自己紹介したところ、「いいね」の数が倍増するなど早くも効果を発揮。同館の鶴田雅之館長は「浜松の文化や芸術に関するＳＮＳを彼らに担ってもらい同世代に広げていければ、文化都市としても発展する。今後も続けていきたい」と話している。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています